

2023 年度 大学院生アンケート報告書

川崎医療福祉大学

FD・SD 委員会

本学の「大学院生アンケート」は専攻での教育・研究について大学院生がどのように評価しているかを把握するために行っている。この調査は、2008 年度より始まり、毎年実施している。

1. 実施状況

1-1 実施対象と実施方法

対象は大学院生全員で、2023 年度の対象者数は 119 名であった。アンケートはポータルサイト上の WebClass で実施した。質問項目は巻末の資料 1 の通りである。

1-2 実施期間

2024 年 1 月 5 日（金）～2024 年 2 月 16 日（金）

2. 実施結果

2-1 回収率（表 1・表 2）

修士課程 在籍者 101 名に対して 60 名から回答を得た（回収率：59.41%）

博士後期課程 在籍者 18 名に対して 5 名から回答を得た（回収率：27.78%）

表 1 回収率の内訳（修士課程）

専攻	学生数	回答数	回収率
医療福祉学	10	7	70.0%
臨床心理学	30	17	56.67%
保健看護学	19	11	57.89%
感覚矯正学	5	4	80.0%
健康体育学	4	4	100.0%
臨床栄養学	9	3	33.33%
リハビリテーション学	4	2	50.0%
臨床工学	1	0	0.0%
医療技術学	10	7	70.0%
医療福祉経営学	0	0	0.0%
医療秘書学	1	1	100.0%
医療福祉デザイン学	2	0	0.0%
医療情報学	6	4	66.66%
合計	101	60	59.40%

表 2 回収率の内訳（博士後期課程）

専攻	学生数	回答数	回収率
医療福祉学	6	0	0.0%
臨床心理学	2	0	0.0%
保健看護学	3	2	66.66%
感覚矯正学	2	0	0.0%
リハビリテーション学	0	0	0.0%
健康科学	3	2	66.66%
医療技術学	1	1	100.0%
医療福祉マネジメント学	1	0	0.0%
合計	18	5	27.77%

2-2 修士課程全体・博士後期課程全体の結果

両課程において、専攻の教育全体に対する満足度 (Q3)、カリキュラムの体系度に対する評価 (Q4)、高度専門職者として必要な知識・技術の習得度 (Q6)、研究課題に対する主体的な取り組み (Q7)、指導教員(副指導教員を含む)の研究指導に対する満足度 (Q8)、研究成果の公開機会(中間研究報告会、学会発表、論文投稿など)の多さ (Q9)、また、博士課程において、シラバス記載の到達目標の達成度(Q5)、実験・研究・実習の設備・施設及び図書に対する満足度(Q10)の平均値は4.0以上と概ね肯定的に評価されていた。一方、両課程において、社会(病院や施設などの現場)との連携に対する満足度(Q11)と他専攻の教員・大学院生との対話・交流に対する満足度(Q12)、また、修士課程において、シラバス記載の到達目標の達成度(Q5)、実験・研究・実習の設備・施設及び図書に対する満足度(Q10)の平均値は3.0台だった。

2-3 各質問項目の記述統計値—各専攻別の結果(表3・表4)

Q3 専攻の教育全体に対する満足度(修士平均4.15、博士平均4.60)

修士課程では、4.5以上が4専攻で、4.0以上4.5未満が4専攻、4.0未満3.0以上が2専攻であった。博士後期課程においては、4.5以上が2専攻、4.0以上4.5未満が1専攻であった。

Q4 カリキュラムの体系度に対する評価(修士平均4.03、博士平均4.60)

修士課程においては、4.5以上が1専攻、4.0以上4.5未満が6専攻、4.0未満3.0以上が3専攻であった。博士後期課程においては、4.5以上が2専攻、4.0台が1専攻であった。

Q5 シラバス記載の到達目標の達成度(修士平均3.95、博士平均4.40)

修士課程においては、4.5以上が2専攻、4.0以上4.5未満が5専攻、4.0未満3.0以上が3専攻であった。博士後期課程においては、4.5以上が1専攻で、4.0以上4.5未満が2専攻であった。

Q6 高度専門職者として必要な知識・技術の習得度(修士平均4.10、博士平均4.40)

修士課程においては、4.5以上が3専攻、4.0以上4.5未満が6専攻、4.0未満3.0以上が1専攻であった。博士課程においては、4.5以上が1専攻、4.0以上4.5未満が2専攻であった。

Q7 研究課題に対する主体的な取り組み(修士平均4.05、博士平均4.80)

修士課程においては、4.5以上が2専攻、4.0以上4.5未満が5専攻、4.0未満3.0以上が3専攻であった。博士後期課程においては、4.5以上が3専攻であった。

Q8 指導教員(副指導教員を含む)の研究指導に対する満足度(修士平均4.50、博士平均5.00)

修士課程においては、4.5以上が8専攻、4.0以上4.5未満が2専攻であった。博士後期課程においては、4.5以上が3専攻であった。

Q9 研究成果を公開する機会(中間研究報告会、学会発表、論文投稿など)の多さ(修士平均

4.47、博士平均 4.80)

修士課程においては、4.5 以上が 7 専攻、4.0 以上 4.5 未満が 2 専攻、4.0 未満 3.0 以上が 1 専攻であった。博士後期課程においては、4.5 以上が 2 専攻、4.0 以上 4.5 未満が 1 専攻であった。

Q10 実験・研究・実習の設備・施設及び図書に対する満足度（修士平均 3.93、博士平均 4.40）

修士課程においては、4.5 以上が 2 専攻、4.0 以上 4.5 未満が 5 専攻、4.0 未満 3.0 以上が 2 専攻、2.0 未満 1.0 以上が 1 専攻であった。博士後期課程においては、4.5 以上が 1 専攻、4.0 以上 4.5 未満が 2 専攻であった。

Q11 社会（病院や施設などの現場）との連携に対する満足度（修士平均 3.90、博士平均 3.80）

修士課程においては、4.5 以上が 1 専攻、4.0 以上 4.5 未満が 6 専攻、4.0 未満 3.0 以上が 3 専攻であった。博士後期課程においては、4.0 以上 4.5 未満が 2 専攻、4.0 未満 3.0 以上が 1 専攻であった。

Q12 他専攻の教員・大学院生との対話・交流に対する満足度（修士平均 3.45、博士平均 3.80）

修士課程においては、4.5 以上が 2 専攻、4.0 以上 4.5 未満が 2 専攻、4.0 未満 3.0 以上が 4 専攻、3.0 未満 2.0 以上が 2 専攻であった。博士後期課程においては、4.0 以上 4.5 未満が 2 専攻、4.0 未満 3.0 以上が 1 専攻であった。

表 3 修士課程結果

修士課程	Q3:専攻の教育		Q4:カリキュラム		Q5:到達目標の達成		Q6:知識・技術の習得		Q7:主体的な取り組み		Q8:研究指導		Q9:成果の公開		Q10:設備・施設・図書		Q11:社会との連携		Q12:対話・交流	
	n	AV	n	AV	n	AV	n	AV	n	AV	n	AV	n	AV	n	AV	n	AV	n	AV
医療福祉学	7	4.43	7	4.29	7	4.29	7	4.29	7	4.43	7	4.57	7	4.57	7	4.14	7	4.00	7	3.71
臨床心理学	17	3.76	17	3.88	17	3.82	17	4.12	17	3.71	17	4.29	17	4.41	17	3.82	17	4.06	17	3.24
保健看護学	11	3.82	11	4.09	11	3.64	11	3.55	11	3.82	11	4.36	11	4.27	11	4.00	11	3.55	11	3.45
感覚矯正学	4	4.75	4	4.50	4	3.50	4	4.25	4	4.25	4	4.75	4	4.75	4	4.50	4	4.25	4	4.25
健康体育学	4	4.75	4	4.25	4	4.25	4	4.50	4	4.25	4	4.50	4	4.50	4	4.00	4	3.25	4	2.50
臨床栄養学	3	4.33	3	3.67	3	4.00	3	4.67	3	4.67	3	5.00	3	4.67	3	4.33	3	4.00	3	2.67
リハビリテーション学	2	5.00	2	4.00	2	4.50	2	4.50	2	3.50	2	5.00	2	5.00	2	5.00	2	4.50	2	4.50
臨床工学	0	/	0	/	0	/	0	/	0	/	0	/	0	/	0	/	0	/	0	/
医療技術学	7	4.29	7	4.00	7	4.14	7	4.00	7	4.43	7	4.57	7	4.71	7	4.00	7	4.00	7	3.29
医療福祉経営学	0	/	0	/	0	/	0	/	0	/	0	/	0	/	0	/	0	/	0	/
医療秘書学	1	5.00	1	3.00	1	5.00	1	4.00	1	5.00	1	5.00	1	5.00	1	1.00	1	3.00	1	5.00
医療福祉デザイン学	0	/	0	/	0	/	0	/	0	/	0	/	0	/	0	/	0	/	0	/
医療情報学	4	4.00	4	4.00	4	4.00	4	4.25	4	4.00	4	4.50	4	3.75	4	3.00	4	4.00	4	4.00
全体	60	4.15	60	4.03	60	3.95	60	4.10	60	4.05	60	4.50	60	4.47	60	3.93	60	3.90	60	3.45

表 4 博士後期課程結果

博士後期課程	Q3:専攻の教育		Q4:カリキュラム		Q5:到達目標の達成		Q6:知識・技術の習得		Q7:主体的な取り組み		Q8:研究指導		Q9:成果の公開		Q10:設備・施設・図書		Q11:社会との連携		Q12:対話・交流	
	n	AV	n	AV	n	AV	n	AV	n	AV	n	AV	n	AV	n	AV	n	AV	n	AV
医療福祉学	0	/	0	/	0	/	0	/	0	/	0	/	0	/	0	/	0	/	0	/
臨床心理学	0	/	0	/	0	/	0	/	0	/	0	/	0	/	0	/	0	/	0	/
保健看護学	2	4.50	2	4.50	2	4.00	2	4.00	2	4.50	2	5.00	2	5.00	2	4.00	2	4.00	2	4.00
感覚矯正学	0	/	0	/	0	/	0	/	0	/	0	/	0	/	0	/	0	/	0	/
リハビリテーション学	0	/	0	/	0	/	0	/	0	/	0	/	0	/	0	/	0	/	0	/
健康科学	2	5.00	2	5.00	2	5.00	2	5.00	2	5.00	2	5.00	2	5.00	2	5.00	2	4.00	2	4.00
医療技術学	1	4.00	1	4.00	1	4.00	1	4.00	1	5.00	1	5.00	1	4.00	1	4.00	1	3.00	1	3.00
医療福祉マネジメント学	0	/	0	/	0	/	0	/	0	/	0	/	0	/	0	/	0	/	0	/
全体	5	4.60	5	4.60	5	4.40	5	4.40	5	4.80	5	5.00	5	4.80	5	4.40	5	3.80	5	3.80

3. 自由記述

他専攻との交流が不十分であるという意見や、WIFI 強度や冷房の稼働時間など施設面の整備についての意見がみられた。自由記述をまとめたものについては、別途保管する。

4. まとめ

アンケート回収率が、修士課程で 59.41%、博士課程後期で 27.73%と低い水準であった。今後、回収率をあげて調査の精度を高める必要がある。

専攻教育全体の満足度の平均値は、修士課程で 4.15、博士課程で 4.60 であった。質問項目が専攻の教育やカリキュラム体系、専攻教員の指導方法や教員間の連携、研究指導等、大学院教育の中核を占める内容で構成されていることからすれば、修士課程並びに博士後期課程の教育・研究体制に対する大学院学生の満足度は総じて高いと言える。ただし、修士課程については、昨年までの 4 年連続 4.4 以上の状態から、5 年前までの水準に戻ってしまった。昨年までの値に戻すべく、原因の究明と対策を進めていきたい。

質問項目別では、「社会との連携」の満足度、および、「他専攻との対話・交流」の満足度について、これまでと同様に 4.0 を下回る値を示した。また、今回、修士課程にて、新たに「設備・施設・図書」の項目が、4.0 を下回った。これらの結果が、全体的な満足度を引き下げている原因の可能性があるので、今後の課題として取り組む必要がある。

図 1 専攻の教育全体に対する満足度の 10 年間の経年変化（修士課程）

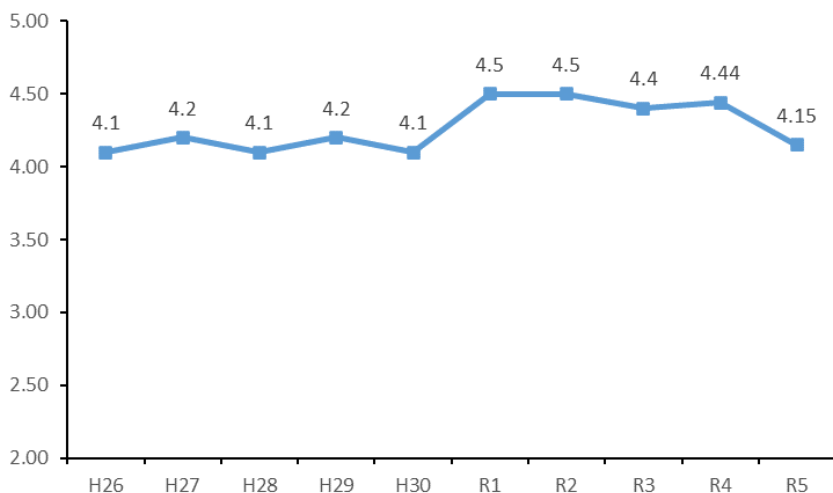


図2 専攻の教育全体に対する満足度の10年間の経年変化(博士後期課程)

